

東北半導体・エレクトロニクスデザイン研究会 第5回会合
議事概要

日時：2023年12月4日（月）13:00～15:00

場所：オンライン

参加者：別途、参加者名簿参照

1. 開会

2. 議事

(1) 活動状況について

① 人材育成・確保事業について

東北経済産業局が資料2に基づき説明。

<質問・意見交換>

- ・ インターンシップ事業における東北大学での実習プログラムとの連携は、具体的にはどういった内容になるのか。
- これまで、東北大学での実習プログラムとインターンシップはそれぞれ別で開催していたが、両プログラムを連携させたいと考えている。企業で実施いただくインターンシップに東北大学での実習2日間を入れるということではなく、東北大学での2日間の実習を経験して理解を深めた後に、各企業でのインターンシップに参加いただくという企画で検討している。インターンシップを実施する企業各社の希望を踏まえて実習と連携した日程調整をお願いしたい。
- ・ 企業視察ツアーや一般の方を対象としたイベント等、リアルでの活動が活発に行われており継続していただきたい。会津ものづくりフェアのようなイベントの活用に向けて、各地で開催されるイベント等の情報を共有していただきたい。
- 今年度は試験的に取り組んだが、かなりの反響をいただいたことも踏まえ、来年度以降の活動においては、拡大展開していくとともに、各自治体等と連携しながらイベント等の情報を収集して共有させていただきたいと考えている。また、半導体を幅広い年代の方々に知っていただくという意味でも重要な取り組みと思っているので、地域単位のイベントにおいても地域外の企業も出展できるよう主催者とも調整していきたい。
- ・ 仙台高専では、半導体工学という科目において、研究会が実施したオンデマンド講座を授業の一環として活用しながら取り組んでいる。また、そこから発展する形で半導体技術者検定の3級を取得できるようなレベルまで学生たちを指導していくこととしている。東北大学での実習プログラムについては、ほぼ毎回参加させていただいて

おり、参加した学生からは非常に実りのある内容であったとの感想を聞いている。また、半導体に興味のない学生に興味を持ってもらうため、クラス単位での工場見学・実習の開催に向け、研究会参画企業様に調整をお願いしている状況。

➤ 工場見学等、事務局を通した方が良い場合は対応するので問い合わせいただきたい。

② サプライチェーン強靱化事業について

東北経済産業局が資料2に基づき説明。

＜質問・意見交換＞

- ・ 部材調達のマッチングや EOL 品の再設計に向けたリスト化については、大変良い取り組みが始まったと思う。マッチングシステムにおける成立が2件とのことであるが、活動は始まったばかりなので継続した取り組みをお願いしたい。
- ・ マッチングの取り組みは、老朽化の課題を抱えている日本の半導体工場にとって重要なこと。このまま継続して拡大大方向に進むことを強く期待している。

➤ マッチングシステムはもっと案件が登録されると思っていたが少ない状況である。現在、各メーカーが契約されているメンテナンス商社に加え、本マッチングシステムも調達方法の一つとして捉えていただき登録をお願いしたい。

- ・ 地元調達に係るマッチングに取り組ませていただいたが、実際の打合せを経て、現在、製品の評価の段階にあり、良い方向に進んでいる。他の参画企業にも研究会を通じたマッチングの活用をお勧めする。

➤ 随時対応を受付しているので案件をお寄せいただきたい。

(2) 今後の推進体制について

東北経済産業局が資料3に基づき説明。

＜質問・意見交換＞

- ・ 説明のあった「シリコンコリドー」を目指すべきと強く思う。それに向けた体制として、研究会の会費制移行に関しては対応を未定と回答している企業も多いことから12～1月にかけて意見交換を活発にしていいただければと思う。事務局人員の派遣についても参画企業として前向きに検討すべきと考えている。

- ・ 今後の体制において、大学等の機関はどのような位置づけになるのか。また、九州の協議会ではどのような位置づけとなっているのか。

➤ 学術機関としてこれまで同様に参画していただきたい。会員ではなくサポーターズという位置づけとしている。九州の協議会における学術機関の位置づけは別途確認させていただきたい。

- ・ 東北地域の半導体関連企業がいかに連携を取るかということとともに、大学・高専とも良い関係を構築していくことが大事であると思っているので、研究会の取り組みは引き続きお願いしたい。余談だが九州の協議会は「SIIQ（シーク）」との愛称があるが、新体制に係るネーミングのアイディアはあるか。
- ネーミングも含め、次回の会合において新体制の方針を示させていただき詳細の内容については、コメント・ご意見を頂戴しながら進めさせていただきたい。

- ・ これまでインターンシップ等の人材育成の取り組みにおいては学部生、大学院の前期の学生までを主な対象としていたが、これからは大学院の後期の学生も対象にして参画させていただきたい。
- 今後の企画についてもいろいろと調整させていただきたいので引き続き協力をお願いしたい。

（３）令和５年度補正予算について

経済産業省、東北経済産業局が資料１に基づき説明。

＜質問・意見交換＞

特になし